

第151回簿記検定試験 3級 出題の意図

[第1問]

(出題の意図)

今回は応用力を試したところもありますが、取引の説明から初見でも解けることが望めます。特にポイントになるところは次のとおりです。

1. 通常の返品の問題です。
2. 中古車ですが販売用でかつ、当店は中古車販売業のため、商品売買取引に該当します。今回は指定の勘定科目を限定することで平易な出題としました。
3. 土地付き建物を購入した場合、建物の取得原価は減価償却の対象であるのに対し土地は対象外であるため、取得原価は貸借対照表だけではなく損益計算書にも影響します。そこで、取得時には手数料も含めて正確に取得原価を算定して記録する必要があります。
4. 諸経費を従業員が立て替え払いして企業から後日支払う取引は過去にも数回出題していますが、今回は各項目を適切な費用の勘定科目に分類することも必要です。
5. 元金均等返済は過去に数回出題していますが、今回は利息の計算も各自で計算となります。問題文で説明があるとおり、返済額に対する利息を支払うのではなく、借入金として残っている元本に対する利息を支払うため、注意してください。

[第2問]

(出題の意図)

総勘定元帳の買掛金勘定と、補助元帳である買掛金元帳との関係を適切に理解しているかを問う問題です。以下の点について十分に理解していれば比較的容易に高得点が得られるはずです。

- ① 買掛金勘定は買掛金元帳を集約した勘定。
買掛金元帳は買掛金勘定の内訳を示す帳簿。
- ② 買掛金勘定には相手勘定を記入。
買掛金元帳には取引の概要を示す帳簿。

前月繰越、次月繰越の記入場所も問題を解く上で重要となるため、この点にも注意することが必要です。

[第3問]

(出題の意図)

合計試算表ですので、解答にあたっては残高を記入しないように気をつける必要があります。取引そのものは基本的で、集計ミスさえしなければそれほど難しい問題です。過去に出題が少ないと思われる項目として「従業員貸付金」がありますが、概ね短期的な給料の前貸しなら「立替金」、従業員の多額の医療費などに対する中長期的な融資制度による貸付けなら「従業員貸付金」という使い分けができます（この使い分けは絶対的なものではありません）。

[第4問]

(出題の意図)

本問は、商品有高帳に関する問題です。

問(1)では、移動平均法で商品有高帳を作成できるかを問いました。売上戻りの記入方法については、問題文の指示に従えば、解答を導くことができます。

問(2)では、売上戻りがあった場合の売上原価を求めることができるかを問いました。売上戻りがあった場合、その分の売上自体がなかったことになるので、売上戻り分の原価は控除する必要があります。「売上原価」を苦手とする受験者は多いですが、精算表や財務諸表の作成問題でも重要な論点ですので、しっかり学習しておいてください。

問(3)では、先入先出法による場合の商品の次月繰越高を求めることができるかを問いました。簡易的な商品有高帳を作成しても解答することができますが、先入先出法は先に仕入れた商品から先に販売したと仮定するので、月末商品がいつ仕入れた分であるかを求めれば容易に解答を導くことができます。

[第5問]

(出題の意図)

本問は、財務諸表の作成に関する問題であり、決算に関する基本的な知識や処理能力を問うものです。修正事項の多くは、過去に何度も出題された基本的な項目です。

[資料 2] 4.については、「実際に行った仕訳（誤った仕訳）」を取り消して、「正しい仕訳」を行えば修正仕訳を導くことができます。

5.の貸倒引当金の設定は、3.を反映させた売掛金の修正後残高に対して行います。

貸借対照表では、貸倒引当金は受取手形や売掛金から控除する形式で、減価償却累計額は各有形固定資産から控除する形式で表示します。

財務諸表の作成を苦手とする受験者も散見されますが、3級受験者は精算表の

作成のみならず、企業活動の成果である財務諸表の作成についても理解を深めておく必要があります。